

1 気象概況（6月：果樹研究所）

6月の平均気温は、19.7℃で平年より0.3℃低くなりました。また、6月の降水量は172.0mmで平年の142.5%と多い状況でした。

2 土壌の水分状況

6月30日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで1.0、深さ40cmで1.2、深さ60cmでは1.4となっており、過湿状態となっています。

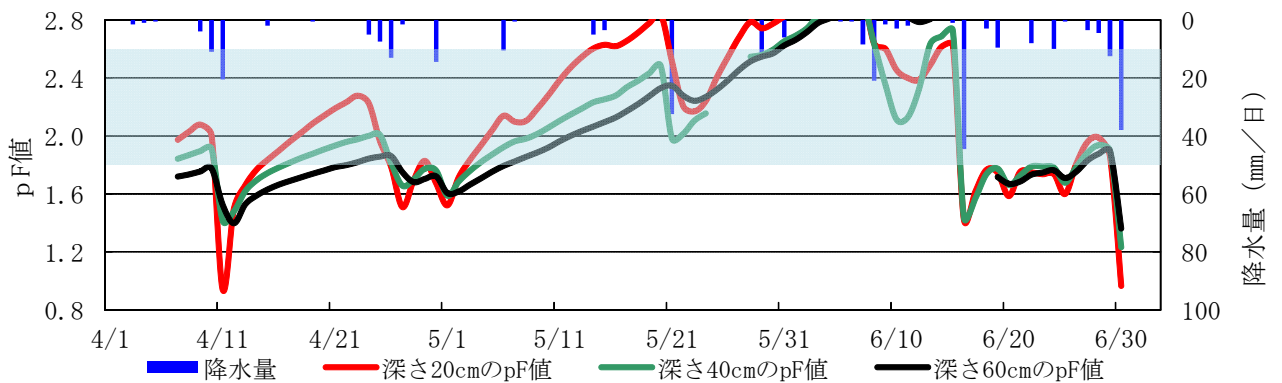


図1 土壌pF値の推移（果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）
 図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「あかつき」は縦径が51.7mmで平年比110%、側径が52.2mmで平年比116%と平年より大きく、「ゆうぞら」は縦径が50.4mmで平年比110%、側径が49.3mmで平年比120%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較でも、「あかつき」、「ゆうぞら」ともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後70日（6月27日）における「あかつき」の新梢生長は、新梢長が平年比140%と長く、展葉数は平年比107%と平年よりやや多い状況です。葉色は平年比94%となっています。

「ゆうぞら」は、新梢長が平年比154%と長く、展葉数は平年比116%と平年より多い状況です。葉色は平年比95%となっています。新梢停止は、「あかつき」、「ゆうぞら」ともに平年よりも遅れています。

ウ 核障害

満開後70日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が70.0%と平年より多く、縫合面割裂が10.0%と平年より少ない状況です。

エ 硬核終了日と収穫期予測

「あかつき」の硬核終了は6月24日頃で平年より4日早くなりました。

7月1日現在のDVRモデルによる「あかつき」の収穫予測では、本年の収穫開始は7月29日頃、収穫盛りは8月2日頃で、平年より4日早い見込です。

表1 ももの新梢生長（満開後70日）

品 種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD値)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	17.7	12.6	140	16.2	15.2	107	40.3	43.0	94	63.3	78.3	81
ゆうぞら	21.2	13.8	154	16.9	14.6	116	41.2	43.4	95	66.7	80.5	83

注) 平年値は、1996～2018年の平均

表2 ももの核障害発生状況（品種：あかつき） (単位：%)

年		30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2019	核頂部亀裂	45.6	70.0	65.0	65.0	70.0	65.0	70.0	—	—	—	—
	縫合面割裂	0	0	0	0	10.0	10.0	10.0	—	—	—	—
2000 ～2018	核頂部亀裂	35.6	35.0	44.2	50.8	52.1	49.5	46.9	41.1	46.6	47.2	47.1
	縫合面割裂	0.2	0	1.8	2.6	12.1	23.9	24.6	23.2	33.9	36.9	26.2

(2) な し

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「幸水」は縦径が36.6mmで平年比116%、横径が43.6mmで平年比118%と平年より大きく、「豊水」は縦径が38.1mmで平年比115%、横径が41.5mmで平年比118%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「幸水」、「豊水」とともに平年より大きい状況です。

イ 着果状況

1回目の仕上げ摘果後の1樹当たり着果数は773果（3.3m²当たり40果に相当）であり、摘果率（（初期着果数－1回目仕上げ摘果後着果数）／初期着果数×100）は35%でした。

ウ 新梢生長

満開後60日における「幸水」の予備枝新梢長は96.5cm（平年比98%）、不定芽新梢長は88.8cm（平年比102%）、予備枝新梢の葉枚数は26.1枚（平年比100%）でした。

満開後70日における「豊水」の予備枝新梢長は105.6cm（平年比102%）、不定芽新梢長は91.9cm（平年比105%）、予備枝新梢の葉枚数は28.6枚（平年比102%）でした。

エ 生育予測

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測は、収穫盛期が8月26日（満開後126日）と推測され、平年より5日早い見込みです。なお、同モデルによる裂果初発日は7月10日（満開後79日）と推測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「つがる」は縦径が59.1mmで平年比121%、横径が63.1mmで平年比116%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が47.8mmで平年比109%、横径が49.5mmで平年比107%と平年よりやや大きい状況です。また、生育日数による比較でも、「つがる」、「ふじ」とともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後60日における新梢長は、「つがる」が22.8cmであり、新梢停止率も100%でした。

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後60日における「巨峰」（有核栽培）の新梢長は103.0cmで平年比142%と平年より長く、展葉数は17.4枚で平年より多い状況でした。また、「巨峰」（無核栽培）の新梢長は148.0cmで平年比112%と平年より長く、展葉数は18.0枚で平年より多い状況でした。

4 栽培上の留意点

(1) 共通

梅雨期は降水量が多く、湿害の危険性が高くなります。土壌の過湿は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょう。また、落葉した場合は着果量の見直しを行います。

今後、土壌の乾燥が続く場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫が始まっています。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように留意しましょう。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害をもった果実などが徐々に目立ってきています。このため、収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施するとともに、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。

ウ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期予測では、収穫始が平年より4日早い見込みです。ただし、核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあることから注意が必要です。「あかつき」等中生種は今月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。また、降雨により園内に停滞水がみられる場合には、明きょを掘るなど速やかな排水に心がけましょう。

(3) なし

ア 新梢管理

「幸水」の腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生育が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があります。まだ終わっていない場合は急いで作業を進めるようにしましょう。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させましょう。この際、着果過多にならないよう、単位面積あたりの着果量を確認しながら摘果作業を進めましょう。なお、裂果が観察され

る時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が終息（満開後90日頃）したら修正摘果を実施しましょう。

(4) りんご

ア 着果管理

7月に入ると花芽分化期を迎えます。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率を低下させる原因となるので、早めに仕上げ摘果を終了させましょう。

仕上げ摘果終了後は、随時修正摘果を実施し、小玉果や変形果、病虫害の被害果、傷果、サビ果等を摘果しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。なお、支柱立ての際には、樹全体のバランスや養分の流れを考慮し、養分が枝先まで十分届くようにしましょう。

(5) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生の要因となります。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、ベレーゾン（水回り）期までに着房数の見直しを行い、適正着果量に調整しましょう。最終着房数の目安は「巨峰」では3.3㎡当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行いましょ。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数を制限しましょう。

イ 袋かけ・傘かけ

摘粒作業が終わりしだい、薬剤散布を行い袋かけ・傘かけを行いましょ。この作業は病虫害防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業です。また、使用した袋枚数を把握し着果量調整の目安とします。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高い傘の利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直しましょ。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ輪紋病、褐斑病

輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となります。また、降雨日が多くなると褐斑病の発生にも注意が必要です。7月上旬にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布しましょ。

イ モモせん孔細菌病

6月下旬における新梢葉での発生ほ場割合は福島地域、伊達地域ともに平年よりやや高い状況にあり（令和元年6月28日付け病虫害防除情報）、今後の降水量は平年よりやや多いと予想されていることから引き続き注意が必要です。罹病部は二次伝染源となるため、見つけしだいせん除して適切に処分するなど、耕種的防除を徹底しましょ。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施してください。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

早生種では灰星病の重要防除時期となるため、7月上旬及び中旬に灰星病防除剤を散布しましょ。また、中～晩生種では灰星病とホモプシス腐敗病を同時防除するために、7月上旬にダコレート水和剤 1,000倍を使用しましょ。

エ ナシ黒星病、輪紋病

6月下旬における新梢葉での発生ほ場割合は中通りでやや高く、浜通りでは平年並です（令和元年6月28日付け病虫害防除情報）。今後の降水量は平年よりやや多いと予想され

ていることから注意が必要です。黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除きましょう。

また、輪紋病の重要防除期でもあるため、7月上旬及び中旬に7～10日間隔で黒星病、輪紋病に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。

オ ブドウ晩腐病、べと病

袋掛け前にはストロビードライフロアブル 2,000倍を散布し、散布後速やかに袋掛けを行いましょう。また、有核栽培では摘粒作業が終わりしだい、今回の防除を行いましょう。

(2) 虫 害

ア ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第2世代の防除適期は6月6半旬であったと推定されるため、防除を実施していない場合には速やかに実施しましょう。本種はもも等の核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、今回の第2世代以降の防除を徹底しましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

フェロモントラップによる調査では越冬世代の誘殺ピークは6月17日でした。本種の誘殺は7月上～中旬に一旦少なくなった後、7月下旬頃から再び増加します。被害が予想されるもも園では、7月2半旬頃までの防除を重視してください。なお、被害果実は見つけしだい摘除して5日間以上水漬けするなど適切に処分しましょう。

ウ モモハモグリガ

モモハモグリガ第3世代の防除適期は7月2半旬頃と推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意し、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

エ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和元年6月28日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	7月3日	7月7日	6月20日	6月29日
平年並み	7月3日	7月8日	6月20日	6月29日
2℃低い	7月4日	7月9日	6月20日	6月30日

注) 起算日：モモハモグリガ6月5日、ナシヒメシンクイ4月26日
(演算方法は三角法)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>